

交通網問題対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和5年4月14日(金)
午前9時23分 開会
午前10時8分 閉会
- 2 場 所 第3委員会室
- 3 出席委員 委員長 竹中 理
副委員長 小森 弘詞
委 員 岡本 昭治、清水 寛、
須山 泰一、前田 敦司、
義本 みどり
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 (別紙のとおり)
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 次長 坂本英津子、主事 菅谷祐一
- 8 会議に付した事件 (別紙のとおり)

交通網問題対策等調査特別委員長 竹中 理

交通網問題対策等調査特別委員会 次第

日 時：2023年4月14日(金) 9:30～

場 所：第3委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

正副委員長 → 各委員 → 当局 → 事務局

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について

【都市整備部】 建設課、都市整備課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項

(3) その他

5 閉 会

交通網問題対策等調査特別委員会名簿

【委 員】

2023. 4. 14

職 名	氏 名
委 員 長	竹 中 理
副 委 員 長	小 森 弘 詞
委 員	岡 本 昭 治
委 員	清 水 寛
委 員	須 山 泰 一
委 員	前 田 敦 司
委 員	義 本 みどり

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
都市整備部長	澤田 秀夫	城崎振興局 地域振興課参事	橋本 郁夫
建設課長	富森 靖彦	竹野振興局 地域振興課参事	小林 昌弘
建設課参事	堀田 政司	日高振興局 地域振興課参事	上野 和則
都市整備課長	久田 涉	出石振興局 地域振興課参事	川崎 隆
都市整備課参事	堂垣 俊裕	但東振興局 地域振興課参事	小川 一昭

10名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局主事	菅谷 祐一

交通網問題対策等調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の基幹交通網の整備をはじめ、市民生活の利便性等を高めるための公共交通機関の諸課題等について調査を行うため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

交通網問題対策等調査特別委員会

3 委員の定数

8名

4 付議事件

- (1) 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）、但馬空港及び鉄道に関する調査研究等
- (2) 路線バス等地域公共交通に関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

交通網問題対策等調査特別委員会重点調査事項

2023. 03. 22

1 高規格道路に関する事項

- 北近畿豊岡自動車道の事業推進に関すること
- 山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）の事業推進に関すること

2 但馬空港に関する事項

- 空港の利用促進並びに支援体制に関すること
- 東京直行便の実現に向けた事業推進に関すること

3 路線バス等地域公共交通に関する事項

- 市内公共交通網の充実並びに利用促進に関すること

4 鉄道交通に関する事項

- 鉄道交通の維持・存続並びに利用促進に関すること

2023年度 交通網問題対策等調査特別委員会 席次(第3委員会室)

2023.04.14



事務局

- 須山委員・
- 前田委員・
- 岡本委員・
- 小森副委員長○
- 竹中委員長◎
- 清水委員・
- 義本委員・

都市整備部

堂垣参事		
久田課長		
富森課長	堀田参事	
澤田部長		

各振興局

橋本参事	川崎参事	
小林参事	小川参事	
上野参事		



午前9時23分開会

○委員長(竹中 理) では、おはようございます。

定刻を5分以上、皆様のご協力によりまして早く集まっていたいただきまして、ありがとうございます。

それでは、ただいまから交通網問題対策等調査特別委員会を開会いたします。

改めましておはようございます。

だんだんと黄砂もちょっと落ち着いたと思うんですけども、春らしくなってきました、今回のこの特別委員会は、年度当初の委員会でもありますし、4月1日の人事異動で新しく替わられた方もあり、また事務局も新しい方もあるし、前の事務局の方もおられるし、新しいメンバーもおられます。そういった委員会で、自己紹介もしていきながら、またいろいろと進めていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いをいたします。

それでは、日程に入ります前にご報告申し上げます。

田原宏二議員が去る3月29日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

それでは、日程に入ります。

それでは、先ほども言いましたように人事異動で当局職員に異動がありましたので、ここで出席者の皆さんに自己紹介をお願いしたいと思います。

まず、委員のほうからということで、委員長、副委員長で委員という形でします。その後に、都市整備部建設課、それから都市整備課、それから各振興局の地域振興課の順番でお願いいたします。最後に事務局のほう、よろしくお願い致します。

最初ですけども、委員長の竹中理といいます。引き続きよろしくお願い致します。

○委員(小森 弘詞) おはようございます。副委員長の小森弘詞です。どうぞよろしくお願い致します。

○委員(岡本 昭治) おはようございます。岡本昭治といいます。よろしくお願い致します。

○委員(前田 敦司) おはようございます。前田敦司です。よろしくお願い致します。

○委員(須山 泰一) おはようございます。日本共

産党豊岡市会議員団、須山です。どうぞよろしくお願い致します。

○委員(清水 寛) おはようございます。清水寛です。どうぞよろしくお願い致します。

○委員(義本みどり) おはようございます。義本みどりです。よろしくお願い致します。

○委員長(竹中 理) それでは、はい。

○都市整備部長(澤田 秀夫) おはようございます。都市整備部長の澤田です。引き続きよろしくお願い致します。

○建設課長(富森 靖彦) おはようございます。建設課長、富森です。私も引き続きよろしくお願い致します。

○建設課参事(堀田 政司) おはようございます。建設課参事の堀田といいます。4月の人事異動で下水道課から建設課に異動になりました。初めての委員会ですので、よろしくお願い致します。

○都市整備課長(久田 涉) 都市整備課長の久田です。引き続きよろしくお願い致します。

○都市整備課参事(堂垣 俊裕) おはようございます。都市整備課参事の堂垣です。4月1日から建設課のほうから異動してまいりました。よろしくお願い致します。

○城崎振興局地域振興課参事(橋本 郁夫) おはようございます。城崎振興局地域振興課参事の橋本です。引き続きよろしくお願い致します。

○竹野振興局地域振興課参事(小林 昌弘) おはようございます。この4月の人事異動で竹野振興局地域振興課参事を拝命しました小林です。どうぞよろしくお願い致します。

○日高振興局地域振興課参事(上野 和則) おはようございます。日高振興局地域振興課参事の上野です。本年度も引き続きよろしくお願い致します。

○出石振興局地域振興課参事(川崎 隆) おはようございます。出石振興局地域振興課参事の川崎です。どうぞよろしくお願い致します。

○但東振興局地域振興課参事(小川 一昭) おはようございます。但東振興局地域振興課参事の小川です。引き続きよろしくお願い致します。

○事務局主事（菅谷 祐一） この4月から議会事務局に配属となりました菅谷祐一です。よろしくお願いいたします。今回、交通網の委員会の担当になりました。よろしくお願いいたします。

○事務局次長（坂本英津子） 議会事務局の坂本です。副担当ということでよろしくお願いいたします。

○委員長（竹中 理） ありがとうございます。それでは、協議事項に入ります前に、連絡をさせていただきます。

委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてからマイクを使用して、発言の最初に課名と名前をお願いします。

それでは、協議事項に入ります。

まず、（1）委員会所管事項の事務概要についてを議題といたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダーの中に配信しておりますので、資料をご覧ください。

それでは、建設課、都市整備課の順で説明をお願いいたします。

どうぞ。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課からは、2件、事務概要を報告させていただきます。

まず、3ページをご覧くださいと思います。北近畿豊岡自動車道の事業促進です。

現況と課題、基本方針です。この路線につきましては、1987年の6月に路線指定をされております。その後、順次整備をされまして、現在は春日インターチェンジから豊岡市の但馬空港インターチェンジまでの間が供用しております。全体延長約7.3キロのうち遠阪トンネルも含めました約6.6キロが現在供用中ということになっております。

事業中の路線につきましては、豊岡道路、但馬空港インターチェンジから（仮称）豊岡インターチェンジまでの2キロと豊岡道路（Ⅱ期）、（仮称）豊岡インターチェンジから（仮称）豊岡北ジャンクションインターチェンジまでの5.1キロの区間となっております。

高速自動車交通網の空白地帯であります但馬地

域の発展を促すためには、引き続き全線の早期整備が課題となっております。全線開通に向けた但馬の熱い思いを強く訴えるための早期実現促進大会を開催するということと、要望活動によってその必要性を強くアピールしていきます。

さらに、早期完成に向けた事業推進を図るために、国、県、関係機関との連携を一層強化し、地元調整などに取り組んでいきます。

概要及び進捗状況ですが、まず、豊岡道路です。但馬空港インターチェンジから（仮称）豊岡インターチェンジまでの2キロの区間です。こちらは既に来年の秋開通予定ということで国のほうから発表されております。

今年度、2023年度につきましては、引き続き改良工事であったりトンネル工事、橋梁上部工の工事が予算額32億円で実施される予定というふう聞いております。

次の2番目の豊岡道路（Ⅱ期）ですが、こちらは（仮称）豊岡インターチェンジから（仮称）豊岡北ジャンクションインターチェンジまでの5.1キロの区間となっております。2020年度の事業化で、2023年度、今年度につきましては調査、予備設計、それから用地買収ということで、戸牧、岩井の地区において用地買収を予定をされております。

なお、この用地買収につきましては、豊岡市が事務を国から受託して、用地交渉等を行うこととなっております。今年度の予算額は2億5,000万円となっております。

3つ目の早期実現促進大会です。例年行っております大会ですが、今年度につきましては、8月5日の土曜日に開催を予定しております。過去3年は新型コロナウイルスの影響もありまして500人程度の規模でしてはりましたが、何とか今年度につきましては、今までどおり1,000人規模での開催をしたいというふうに考えております。

4つ目の要望活動ですが、こちらも毎年のことですが、国交省、それから財務省、近畿地方整備局等に要望活動を行っていく予定としております。

続きまして、1ページ飛びまして、5ページをご

覧いただきたいと思います。山陰近畿自動車道の整備促進です。

こちらにつきましては、路線指定が1994年の12月ということで、鳥取、それから豊岡、京都を結ぶ道路となっております。全体延長は約120キロですが、県内延長につきましては約51キロとなっております。県内では香住道路、それから東浜居組道路、余部道路、それから浜坂道路ということで、現在51キロ中、約23キロが供用をされております。

現在、事業中の路線につきましては浜坂道路Ⅱ期、居組インターチェンジから新温泉浜坂インターチェンジまでの7.6キロ、それから、豊岡市内では竹野道路、こちらは2021年度に事業化されております（仮称）竹野インターチェンジから（仮称）豊岡北ジャンクションインターチェンジまでの4.9キロ、それから今年度、新規事業化ということになりました城崎道路、（仮称）豊岡北ジャンクションインターチェンジから（仮称）城崎温泉インターチェンジまでの7.4キロ、こちら国のほうで県に成り代わって事業をしていただけるということになっております。

環日本海時代を展望した交流促進型広域道路として位置づけられており、鳥取県東部地域、それから京都府北部地域及び兵庫県但馬地域の都市連携を可能にし、50万人を超える地域集積圏の形成を促進するものでありまして、早期の整備が課題となっております。

こちらも北近畿豊岡自動車道と同様に、全線開通に向けた但馬の熱い思いを強く訴えるために、早期実現促進大会の開催、それから要望活動によってその必要性を強くアピールしていきます。

また、未事業区間の事業化、全路線の早期整備に向けまして、より一層積極的な活動を展開していきたいというふうに考えております。

概要及び進捗状況です。

まず、1番の浜坂道路Ⅱ期ですが、こちらは2023年、今年度につきましては56億2,200万円の事業費を予算計上されておまして、引き続き

トンネル、それから橋梁などの工事を行われるとお聞きしております。

続きまして、竹野道路ですが、こちらは今年度予算4億3,200万円ということで、引き続きの調査、それから道路の詳細設計、それから今年度から一応地買収等も予定をされてるということ聞いております。既に関係区等への役員への事業説明は実施済みです。

それから、次の城崎道路、今年度から事業化になっておりますが、こちらにつきましては予算額5,000万円ということで、国による権限代行業業ということで実施されます。今年度につきましては、調査等が行われるというふうに聞いております。

続きまして、5番ですが、早期実現促進大会ということで、先ほどの北近畿豊岡自動車道と同時開催ということで8月5日に予定をしております。

それから、要望活動につきましても北近畿自動車道と一緒に、先ほど申しました関係機関に要望を予定しております。

それから、7番目ということで、山陰近畿自動車道整備推進決起大会というのが東京のほうで毎年ありますが、そちらへも参加予定としております。北近畿豊岡自動車道と併せまして、広域高速交通ネットワークの形成を図っていきたくて考えております。

それから、ちょっと1ページ戻りまして4ページですが、北近畿豊岡自動車道と山陰近畿自動車道の早期整備要望ということで、今年度の要望内容を書かせていただいております。北近畿自動車道では2項目、それから山陰近畿自動車道では4項目の要望事項を上げております。この要望事項に基づきまして要望活動をしていきたいと考えておりますので、ご清覧いただきたいと思います。

建設課からは以上です。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） それでは、都市整備課です。3件上げさせていただいております。

まず、6ページをご覧ください。空港の利用促進と利便性の向上についてです。

まず現況と課題、それから基本方針についてです。コウノトリ但馬空港は、1994年の開港以来、豊岡市をはじめ但馬地域の活性化に大きく寄与したところです。

昨年の2022年度の利用者につきましては、昨年度と比較し回復傾向にはあるものの、依然としてコロナ禍前の水準まで回復しておらず、結果的には3月31日時点の速報値で、対前年度8,570人増の合計2万9,616人の方が搭乗されております。今年度も引き続き可能な範囲での利用拡大を図りつつ、但馬と首都圏を結ぶ東京直行便の開設に向けた取組、あわせまして、但馬―伊丹線の年間目標利用率を70%とするターゲット70を継続して積極的に取り組むこととしております。

次に、概要についてです。3つ上げております。主な取組の1点目につきましては、市民等に対する但馬路線航空機運賃の助成や小学生の社会見学への支援を通じ、但馬空港の利用を促進します。

2点目としましては、県と但馬空港推進協議会と本市のほうで連携をしまして、東京直行便開設に向けた日本航空や日本エアコミューターへの要望を今年も昨年同様7月をめどに予定をしておるところです。

3点目につきましては、記載のとおりです。

それから、引き続きまして、次に7ページをご覧ください。バス交通の充実と利用促進についてです。

こちらにつきましても現況、課題、基本方針です。地域公共交通の基盤であるバス交通について今年度も継続して国、県と協調し、運行に係る経費の補助を行い、主要バス路線の維持確保に努めたいと考えております。

また、路線代替交通として運行しています市営バス「イナカー」につきましては、6路線で継続運行を行い、沿線住民の外出を支援したいと考えているところです。

地域主体交通のチクタクについても、今年度も引き続き出石、但東、4つの地域で継続運行し、交通弱者の日常生活を支えたいと考えております。

今後も引き続き地域の実情に応じた新たな交通

モードの検討を進め、公共交通の基盤であるバス交通の維持推進を図ることとしています。

概要についてです。主な取組についてですが、まず1点目の主要バス路線の維持につきましては、先ほど現況で説明させていただきましたとおりです。

2点目の地域の実情に応じた新たな交通モードの検討につきましては、昨年度に引き続き竹野南地区の乗合運送サービスのりあいみ・な・みの実証運行業務を引き続き行いたいと考えています。

3点目については、記載のとおりでございます。

最後、4つ目ですけれども、公共交通への市民の関心を高め、利用者の維持増加を図ることを目的に、全但バス株式会社の協力の下、行ってきましたノーマイカーデーを昨年度に引き続きまして第2水曜日と第4金曜日、月2回の利用促進に加え、職員の市内移動等に係る公共交通利用にも取り組むこととしています。

それから、引き続き3つ目です。8ページをご覧ください。鉄道交通の利用促進についてです。

こちらでも現況と課題、基本方針ですが、通勤、通学、通院など市民の日常生活など、交流人口の拡大や災害時のリダンダンシー機能の確保の観点から、鉄道交通は必要不可欠な重要な交通基盤であると考えています。

しかしながら、自家用車の普及や沿線人口の減少等により利用者は年々減少の一途をたどっており、極めて厳しい状況にあります。

このような状況の中、JR西日本は大量輸送機関として鉄道の特性を発揮できていないとする輸送密度と経営状況を公表し、最適な地域交通体系をつくり上げていく必要があるとの課題を提起しまして、県と沿線自治体は路線ごとに現状と課題を踏まえた利用促進策の方向性を取りまとめたところです。

また、京都丹後鉄道につきましては、維持活性化を推進するため、2015年の4月より運行管理部門と資産管理部門、分けて経営しますいわゆる上下分離方式が導入され、沿線府県市町が連携し、引き続き利用者の利便向上対策と運行事業者への支援

を行うことと考えています。

次に、概要です。

まず、大きな大項目1番目のJRローカル線の維持存続及び利便性向上のための機運醸成と要望活動、4項目ございますが、(1)の山陰本線の維持存続に向けた取組につきましては、JRローカル線利用促進検討協議会の議論の方向性に基づきまして、城崎温泉駅から竹野駅、メインは竹野駅のところで考えていますが、地元の区長会や観光協会と丁寧な議論を重ねまして、実現可能な施策から戦略的に取り組むこととした新規事業を予定しておるところです。

残りの項目については記載のとおりでございます。

それから、次の大項目2つ目、京都丹後鉄道に対する支援の2つの項目につきましては、例年の取組であります。全て記載のとおりとしております。

都市整備課からは以上です。

○委員長(竹中 理) それでは、事務概要の説明は終わりました。

質疑、質問入ります前に、本日は事務概要の説明ということですので、前回も委員会ありましたけども、前回からほぼほぼ変わってない状況ではありますけれども、それ以降で何か委員のほうで、今の説明と、あと何か新たな何か質問がありましたらよろしくをお願いします。

○委員(前田 敦司) いいですか。

○委員長(竹中 理) はい、どうぞ。

○委員(前田 敦司) すみません。以前のところとちょっと違うところとして、今回JRの説明あったんですけど、みどりの窓口が、江原駅が人がいなくなって端末だけになったというところで、この間、ちょうど4月に行く機会があったので伺ってきたんですけど、非常に困惑を生みまくってるなというところがあって、1回何かというのをちょっと説明だけさせてもらおうと、どなたが電話でオンラインでやっている、その人を待ってる間にずっと並びになっちゃうのね。1個しか端末がないので、オペレーターがつながるまでひたすら待つみたいな。でも、

特急とか定期とかだったら、それ1個しかないの、ずっと、これ大丈夫なのかなと思ってしまったんですけど、その辺りの情報とかっていうところは何か入っておられますでしょうか。

○委員長(竹中 理) どうぞ。

○都市整備課長(久田 渉) 江原駅につきましては、今委員言われるように3月の16日から、15に端末機が入ってます。オペレーターは、今言われるみたいに、オペレーターが画面の前に、向こう側におられて、こちら側に列ができて、例えばAさん、Bさん、Aさんが終わると次Bさんが行くんですけど、Aさんが終わった時点で一旦画面はぱつんと切れます。JR西日本の中でオペレーターは18人程度おられて、西日本全体で、今現時点でそんな状況なんです。なので、次のBさんが立たれたときは、また画面に出るのに例えば20分待ちですとか15分待ちですというのが表示が出てしまうので、終わったら次の方がすぐには行けないのです。

江原駅はたしか4月いっぱい、控室のほうに職員が1人おられると聞いてます。だからふだんは中に、隠れとるわけじゃないんですけど、ピンポンと押すと出てこられて、4月中は特に学生さんとか初めての方があるということで、横についてもらってその操作を手伝ってはもらえるんですけど、今言われた、根本的な1人終わると続けて次々次々はいけない、そういうような仕組みになってます。以上です。

○委員長(竹中 理) どうぞ、前田委員。

○委員(前田 敦司) ありがとうございます。

仕組みは理解するんですけど、これ今後もずっとこのような状況にあるんだとしたら、市としても問題として取り上げていただいて、それを今後に入れていくとかっていうことは可能なんですか。

○委員長(竹中 理) 久田課長。

○都市整備課長(久田 渉) 実はJRの豊岡の駅長さんのところにも、この件についてはもう半年、去年夏ぐらいから豊岡はもう既になってますので、駅長さんところに話しに行かせてもらって、何とかオペレーターの数を増員してもらうことは可能な

のかということを探ねました。駅長さんは、豊岡駅としては向こうの、兵庫支社のほうにはその旨は伝えてあるんだけど、なかなか難しい状況だ。だから、本市についてのということになるんですけども、うちのほうにつきまして、特段こうしなければならないとかこうしようというところはないんです。以上です。

○委員長（竹中 理） 前田委員。

○委員（前田 敦司） 現状は理解しました。

じゃあ、今日はこのぐらいで終わっときます。ありがとうございます。

○委員長（竹中 理） いいですか、引き続き今の関連ですけど、そのボタンを押したら裏から出てきてくれるっていうのは、市民にお知らせしていいんですか、それは。

○委員（前田 敦司） 気づきませんでした。

○委員長（竹中 理） えっ。

○委員（前田 敦司） 気づかれなくてずっと待てる状態で、三、四人並んでました。

○委員長（竹中 理） 呼出しボタンっていうのはあるんですか。（「うん、ある」と呼ぶ者あり）それじゃ、押してもいいということですか。（「禁断のボタン」と呼ぶ者あり）

どうぞ。

○都市整備課長（久田 渉） JRの方が年明けからみどりの券売機プラスの説明に来られてまして、そのときの紙には書いてあるんで、それは可能だと思います。

○委員長（竹中 理） あっ、それはいいんですね。

○都市整備課長（久田 渉） ただし、もう4月、ずっとではなくて出足の1か月とかで、年限は区切っていないんですが、1か月程度はそこにおられて操作のお手伝いというんか、アドバイスをさせてもらうというふうに聞いてます。

八鹿駅も同じようなことを言われてます。導入された1か月程度という。（「なるほど」と呼ぶ者あり）以上です。

○委員長（竹中 理） はい、岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 今のに関連して、ちょっと突

拍子もないこと聞かかも分かりますけど、江原は無人ですかね、八鹿も無人なんですか。（「八鹿も無人」と呼ぶ者あり）

例えば間に合わなかったら、無人だと多分入れると思うんですね。入れますよね。入って中で買うっていうことは可能、そんなことご存じないかも分かりますけど。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 可能です。

○委員（岡本 昭治） 可能ですね。

○都市整備課長（久田 渉） ただ、今までみたいに乗車券だけじゃなくて今回指定席も。

○委員（岡本 昭治） そうですね、全部から。

○都市整備課長（久田 渉） 買えますんで、それは中の駅員さんとの話ですけども、豊岡駅でも実際のところ朝夕はもう列になってしまうと、駅員さんが出てこられてもう中に入ってくださいと。

○委員（岡本 昭治） そうですね。

○都市整備課長（久田 渉） 間に合わないから中に入場してくれというようなことで、そういう手続きができます。以上です。

○委員長（竹中 理） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） あまりイレギュラーなことは言わんほうがええんかも分かりますけども、間に合わないときはね、どうしても、電車に乗ってしまって、そこで手続きしていただくという形もありかなというちょっと思ってますので、本当に困ったときはそういうふうにしてくださいとは言えないのかも分かりませんが、それちょっとそういうふうにお願いします。

○委員長（竹中 理） ほかにありませんか。

須山委員。

○委員（須山 泰一） 竹野は観光協会の人、元OBの方ですか、駅に置いてるというような話、来てもらってるというような話聞いたんですけど、そこについてお伺いしたいです。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 竹野でいうとOBの方が1名おられまして、ボランティアで活動されて

おられます。

コロナ禍になったときは動けなかったですけど、以前は1か月か2か月に1回、20人、30人ぐらいの人を募って、貸切り列車みたいなことで実際鳥取方面に行かれとるというふうなことはもう情報として聞いております。以上です。

○委員長（竹中 理） 須山委員。

○委員（須山 泰一） 僕も駅を見てないのであれなんですけど、乗車券を買うということについての、竹野や城崎なんかはその点についてはどういうふうになってるんですかね。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 城崎は今も駅員さんが常駐されてますんで、券売機もありますし、駅員さんもおられます。なので、特段の問題はないんですけども、竹野につきましては、今豊岡市のほうが予算を確保しまして、竹野の観光協会のほうに委託業務として切符を販売する業務を委託してますんで、そこで対応はしているところです。以上です。

○委員長（竹中 理） はい、須山委員。

○委員（須山 泰一） 江原でもちょっとそういう方向が検討できればと思います。お願いしたいです。

○委員長（竹中 理） そのほかありませんか。
清水委員。

○委員（清水 寛） すみません、ちょっと引き続き鉄道のことなんですけども、かつてというか、これまでは複線電化に向けての活動をずっと推進してきたんですけども、逆に言えば今はそのもっと手前のほう、後退する話になってるんで、その複線電化の取組ということに関してはもう完全に凍結されるというか、もう、何ていうんですかね、なくなるといような話になるんですかね。その点、ちょっといいですかね。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 今、近隣では3つの期成同盟会あります。全て複線電化促進期成同盟会で、今までは要望書の中身のトップに複線電化の項目が上がっていたんですけど、いろんな総会とか担当の課長会議する中で、その順番を一番、複線電化

を一番下にずらして、一番トップにもう維持、利用、存続というような文言を持ってきて、だから、なくなっただけではないですけど、極めて順番はもう後回しになってる、消えてはいないです。以上です。

○委員長（竹中 理） 清水委員。

○委員（清水 寛） そしたら、逆に言えば、今の状況では、それはちょっとなかなかうたいにくいということもあるけども、これまでの活動はもうなしということではなくて、これまでの活動そのものは、基本的には置いた状態で取り組んでいくという感じですね。はい、分かりました。

○委員長（竹中 理） そのほか質問等ありますか。
岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 時間を使ってすみません。

高速道路があちこちつながってきたりとかしますけども、ちょっとあるところで、道路が造られたことによって山と水の流れがちょっと変わってきたということで、水が増えたとかということもあるんですけども、特にその関係の地域の方々から苦情というのは何か出てますか。苦情出たら多分対応していただいているんだと思うんですけど。

○委員長（竹中 理） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 道路がついて水がたくさん出るっていうのは、苦情というか要望は日高のほうでもあります。国のほうとも相談したり、市のほうで対応しないといけないことについてはできるだけ検討して、対応ができるかどうかも含めて検討はしてるようなところです。

あと、竹野道路なんかでも、計画の説明の際に、トンネル掘ることによって水の道が変わるんじゃないかとかっていうようなご心配の意見なんかも出てくることは出ております。以上です。

○委員長（竹中 理） いいですか。

○委員（岡本 昭治） はい。

○委員長（竹中 理） それでは、あと、そのほかありませんか。

○委員（岡本 昭治） いいですか、もう一つだけ。

○委員長（竹中 理） はい、どうぞ。
じゃあ、岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 但馬空港の利用促進で頑張っていたとんですけど、昨年度の欠航ってあると思うんですよ、飛行機が飛ばなかったというようなことがあると思うんですけど、分かっておれば結構ですし、何月に何回欠航したとかですね。それが全て毎年同じかというところでもないかも分らないですけども、昨年度末で。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 何便という数字じゃなくてパーセントで言ってます。なので、例えば3月でしたら、就航率という形でいきますと、昨年度では最高のときが5月が100%で、次によかったのが3月で98.4%ということです。この3月、ちなみにですけど、3月は去年の12月から今年1月、2月っていうのが利用率がすごい低くて心配しておったんですけど、最後3月が大方67.9%ということで、ここで年間平均2%ちょっと上がったということで、そういうふうな状況になっています。以上です。

○委員長（竹中 理） いいですか。

○委員（岡本 昭治） はい。

○委員長（竹中 理） そのほか。

じゃあ、清水委員。

○委員（清水 寛） もう1点だけ、そしたら。

ちょっとバス交通なんですけども、基本的には既存の取組が今、概要というかその取組としてはあるんですけども、国のほうは今自動運転とか、結構実証であちこち募集されたりとかされてるっていうの、そういうのに対して豊岡市として何か取組として考えてるということはあるんでしょうか。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 具体的に、今特にすぐということば考えておりません。車両のほうも結局、いずれにせよ道路に何かを埋め込まないと自動運転にならないとか、その辺はまだはっきりとはしてないんですけども、今具体的にいつから市のほうはどうするっていうことはありません。

○委員長（竹中 理） 清水委員。

○委員（清水 寛） 村部のほうの交通でいえば、

やはり自動運転っていうのが一つ大きなキーになるのかなというふうにも思いますし、特に交通量が少ない、いわゆる村部のほうはたくさんありますから、その中で日高でも三方のほうとか、それぞれ谷ごとに分かれてるようなところもあつたりするんで、そういう実験したりとかするのには、環境としてはいいのかなというふうにも思います。

そういう意味でやはりちょっと積極的に、そういうことを機会があれば取り組んでほしいなと思いますけども、その点改めてお聞きします。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） バス事業者さんである全但さんともその辺の話はしてまして、今、この二、三年がドライバー不足が深刻になると、運転手さんの業務の改善の基準が2024年の春から変わります。その辺見据えて、全但さんも自動運転にはすごい興味持って関心もあるんで、どちらかというとそちらからの情報もいただきながら、うちもバス自体の補助はずっとさせていただいてますんで、その提案というんか、そちらとの話の中で可能なことがあれば対応していきたい、そういうふうに思っています。以上です。

○委員長（竹中 理） そのほかありませんか。

須山委員。

○委員（須山 泰一） 今、自動運転というのは、ちょっと全く、そんなまだ現実的な話でないと思ってたんですけど、そういうのをやっているとどこかあるんでしょうか、教えていただきたい、分かれば。

○委員長（竹中 理） 久田課長。

○都市整備課長（久田 渉） 具体的にはちょっと分かりませんが、よく関西方面でいってました、いわゆる電気のバス、充電、そういうのはありますけど、具体的に自動運転としてというのは、私は今のところちょっと存じてないです。以上です。

○委員（須山 泰一） ありがとうございます。いや、僕もちょっと知らなかった。ありがとうございます。

○委員長（竹中 理） いいですか。

○委員（須山 泰一） はい。

○委員長（竹中 理） それでは、ないようでした

ら、以上で委員会所管事項の事務概要については終わりますけれども、この際、当局のほうから何か発言はございませんか。ないですか。

ないようですので、当局の職員の方は退席をしていただいて結構です。お疲れさまでした。ありがとうございました。

それでは、引き続きいきたいと思います。

次に、(2)委員会の運営方針についてです。

前回までの委員会で決定しました委員会重点調査事項を、資料の4ページですけれども、はい、ありがとうございます。4ページに配信しております。改めて今期の委員会重点調査事項について協議をお願いしたいと思います。

この件についてご意見はありますか。

この間、変更したばかりですので、これでいきたいと思いますけど、皆さんご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(竹中 理) じゃあ、ご異議ありませんので、このとおりでいきたいというふうにあります。現行のとおりで変更しないこととしたいと思いません。

それでは、次に、(3)その他についてです。

5ページの席次は田原議員がおられたところを詰めたということで、あと並びはそのままということで、これでよろしいですか。いいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(竹中 理) じゃあ、このようにいきたいと思います。

それでは、その次ですけれども、管内視察につきまして、以前も言ってた、これちょっとじゃあ事務局のほうからお願いします。

○事務局次長(坂本英津子) 竹野方面の視察のお話をさせていただいていたんですけども、この間、お知らせさせていただきましたように、5月13日から竹野地域のほうで本格的にワークショップ、地域の方とか専門職大学の学生さんとかを交えた話し合いを重ねていかれるということがありまして、4月、5月に竹野のほうに行ってもらってもタイミング的に早いんじゃないかっていうことを都市整備課

の課長から言われておりまして、予定してた4月、5月の竹野方面はちょっとなしにさせていただいたほうがいいのかと考えております。

また、次に、空港の話もあったので、空港の施設見学といいますか、そこら辺の話を今度6月の委員会、6月26日になるかと思うんですけども、その辺の対応については今、空港のほうからもオーケーをいただいていますので、もし皆さんのほうでいいということであれば、その辺も検討していただければと思っております。

○委員長(竹中 理) 今、事務局からお知らせありましたように、竹野のほうについてはタイミング的に行ってもちょっとまだ何も固まってないっていう状況ですので、もう少し後にしていきたいというのと、あと、但馬空港が前回お願いしたときにちょっと断られたんですけども、今回事務局のほうが問い合わせしていただいて、6月だったら大丈夫ですということでしたので、6月の特別委員会のときに、ここの委員会室でやらずに、できたら空港のほうに行って管内視察をやりたいなというふうにとちょっと事務局とは相談をして、副委員長とも相談させていただきました。

これにつきまして何かご意見等ございましたらよろしくをお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(竹中 理) じゃあ、皆さん、ご意見ないということですので、そういう方向で、次の委員会は、先の話ですけど、こっからバスで行く形ですね。

○事務局次長(坂本英津子) そうですね。

○委員長(竹中 理) はい。じゃあ、取りあえず市役所に集まっていたら、こっからバスで空港に行くというような感じで考えておりますので、またご案内は改めてしますけども、間違えないようお願いしたいなというふうに思っておりますので、よろしくをお願いします。

どうぞ。

○委員(前田 敦司) すみません、日程ってもう決まってるんですけど。

- 委員長（竹中 理） ええとね、6月の。
- 委員（前田 敦司） はい。
- 委員長（竹中 理） いや、まだ。（「26」と呼ぶ者あり） ああ、26か。
- 事務局次長（坂本英津子） 6月26。
- 委員長（竹中 理） 委員会の日にちがもう決まってるんですね。（「委員会は26」と呼ぶ者あり） 6月26ですね、すみません。
- 委員（前田 敦司） 月曜日で時間は午前中。
- 事務局次長（坂本英津子） 午前中。あと予算決算委員会がありますので、ちょっと早めには帰ってこれるように考えております。
- 委員（前田 敦司） では、大体9時半から11時半ぐらいの。
- 委員長（竹中 理） そうですね。お昼までぐらいだと思います。
- 委員（前田 敦司） 分かりました。ありがとうございます。
- 委員長（竹中 理） それでは、そのほか何か、その他発言ございませんでしょうか。
ないようですので、以上で委員会を閉会したいと思います。お疲れさまでした。ありがとうございます。

午前10時08分閉会
